

スタートは「竹の寺・報國寺」!

●湘南蒲高会主催「鎌倉散策」に参加 その2

12月6日(土)の「湘南蒲高会主催の「2025年紅葉

の鎌倉散策」の続きです。10時15分、鎌倉駅東口からハイランド循環に乗り、6つ目のバス停「浄明寺」で下車しました。ここからは鎌倉ガイド協会の皆さんからいただいた資料などを基にご紹介してまいります。

◇ ◇

◆塩の道(鎌倉街道下の道/六浦路): 鎌倉駅から八幡宮前を右折して浄明寺を通り、十二所(じゅうにそ)を抜けて金沢八景駅(横浜市金沢区)に通じるバス通り(県道204号金沢鎌倉線)は「塩の道」と呼ばれていました。金沢の平湯湾沿岸(横浜市金沢区)では、鎌倉時代から明治時代にかけて金沢八景の六浦で作られた塩を鎌倉に運ぶ道でした。六浦は中国との交易品が集まる良い湊でした。【観光かながわNOWより抜粋】

◆滑川: 鎌倉の北東部、十二所を源流として胡桃川~滑川~坐禅川~夷堂川~炭売川~閻魔川と6回名前を変えて相模湾に注ぐ。全長6キロで鎌倉石の川底は水が滑る様に流れている。

◆朝夷奈切通: 鎌倉鎌倉が開かれる前から、鎌倉から六浦(横浜市金沢区)に抜ける道があったといわれています。これはこの朝夷奈切通です。この切通しは鎌倉七口の切通しの中でも一番の長さを誇り、切り通しの雰囲気がよく残る古道です。源頼朝の時代、朝夷奈三郎義秀が一夜で切り開いたという伝説があります。鎌倉時代の六浦は鎌倉の外港として都市鎌倉を支える重要な拠点でした。そして六浦を鎌倉幕府を結ぶこの道は、鎌倉七口の中でも物資を運ぶ最重要道路でした。塩などので生活物資を運ぶほか、軍事上重要な道であったため、切り通しの上には侵入者を討つための平場が存在します。「吾妻鏡」には1241年(仁治2年)に、鎌倉幕府執権であった北条泰時の指揮で、六浦道の工事が行われたという記事があり、これが造られた時期だとも考えられています。【梶原太刀洗水】1183年(寿永2年)、鎌倉時代に差し掛かるまさに時代の変革期、梶原景時が上総介広常の屋敷で広常を暗殺しました。その後、梶原景時がこの湧き水で太刀の血を洗い流したという伝説が残されています。鎌倉の創世記を代表する逸話の舞台がここにあります。【鎌倉トリップより抜粋】

◇ ◇

バスを降りて鎌倉ガイド協会の方からの資料や伺ったお話を調べてみるといろいろなことが分かります。さて、最初の見学は竹の寺とも呼ばれる「功臣山 報國寺(こうしんざん ほうこくじ)」です。

◇ ◇

◆報國建忠禅寺【臨済宗建長寺派】: 創建は建武元年(1334)。境内の孟宗竹林から「竹の寺」として有名である。竹の庭は塔頭・休耕庵跡。開基の足利定時は足利尊氏の祖父であり、永享の乱(1438)により四代鎌倉公方・足利持氏の嫡男・義久が永享11(1439)年に10歳(14歳)で自刃した悲劇の地である。かつては足利氏と上杉氏の菩提寺として栄え、衣張山(きぬはりやま)まで境内に含む広大な寺領を持っていた。



山門



山門脇の枯山水



本堂



鐘楼

本尊の釈迦如来坐像は宅間方眼作、南北朝時代に鎌倉地方に流行した宗風彫刻の典型的な法衣垂下の寄木造りで、市指定文化財。本堂右手前の釈迦堂には釈尊十大弟子の迦葉尊者像、天岸慧広像が安置されている。明治時代の火災で貴重な寺宝が失われたものの、夢窓疎石の兄弟子である開山の天岸慧広が元(げん)にいた時から帰国後にわたって作った漢詩を集めた「東帰集(とうきしゅう)」(国重文)等、多くの文化財が伝えられている。足利一族等の墓と伝えられる大きなやぐらが並び、宝篋(ほうきょう)院塔・五輪塔等が祀られている。鐘楼の脇に多くの五輪塔が置かれている。先代住職が建立した碑には「元弘三年(1333)5月の北条一族と新田勢の合戦の折の、両軍戦死者の遺骨を由比ガ浜より改葬した」旨が記されている。境内にはさまざまな花が咲き、「東国花の寺百ヶ寺」の一つ。ミシュラングリーンガイド三ツ星。

◇ ◇

花の寺と呼ばれる通り可憐な「笹りんどう」の花が私たちを迎えてくれました。本堂と釈迦堂などをお詣りし、残念ながら時間がないので「竹の庭」はパスして次へ向かいました。

